

# FANTIC

ファンティック・レーシング・ニュース  
2025年3月17日

# RACING

**カネット、わずかに表彰台を逃す。バルタスは 12 位に。**



**アロン=カネット、アルゼンチン GP でもプッシュを続け、わずかに表彰台を逃す 4 位に。ファンティック・レーシング・リノ=ソネゴのチームメイト、バリー=バルタスはスタートより 3 つポジションを上げたがトップ 10 入りは逃す結果となった。**

アロン=カネットはアルゼンチン入りした当初、テストの結果やタイ戦での強いレースから自信に満ち溢れていた。しかし練習走行でのクラッシュで危うくこの週末のすべてが台無しになってしまうところだった。セッション終わりで喫したクラッシュで、すでにヘレスでの転倒で痛めていた肩を激しく打傷してしまったのである。レースレギュレーションに従ってメディカル・チェックを受けたところ、レース出走には問題ないとの判断を得たカネットではあったが、不安を抱えての予選を迎えることになった。

肩の痛みは激しかったが、カネットのレースへの姿勢はさらに熱いものだった。カネットは予選を10位にまとめると、レースに向けての集中力を高めていた。スタートを決めたカネットは数コーナー先ではすでにトップ5に食い込み、さらに激しいチャージをつづけ、8周目には表彰台争いをするポジションにまで持ち込んだのである。レース中盤、レースペースをうまくコントロールしていたカネットだったが、徐々に痛みが増してきた。しかし戦士のごとくこれに耐えながら戦いをあきらめずマシンをフィニッシュラインに持ち込み、わずか0.4秒差での4位を確保したのである。

時速300kmを超えるMoto2マシンを厳しいレースの中で乗り続ける激しさは、体調が万全であったとしても容易なことではない。ピットボックスに疲弊しきって倒れこんだカネットがこのレースをいかに厳しい条件で戦ってきたのかはその姿が物語っていた。しかし、チャンピオンシップは長い。そのうえ、去年の戦いで、いかにどんな状況であっても確実にポイントを獲得していくことが大切かを学んできたカネットは、今日、改めてそれを実践して見せたのである。

続くオースティンは彼が得意とするサーキットだ。それまでの時間をまずは体調の回復に努めていく。

バリー＝バルタスはアルゼンチンでトップライダーに食い込み戦えることを証明しようと意気込んでいた。練習走行からその実力を見せつけていたが、予選ではタイムアタック中に2つほどのミスが続き、タイムとしては15番手に沈んでしまった。スタートも思い通りにはいかず、3周目には22番手まで落ちてしまったが、その後ペースを上げ、最終ラップまであきらめることなく前を追い続け、12位まで順位を回復してのチェッカーとなった。彼の成長にとっても重要な週末であり、2週間後のテキサスに向けての価値あるレースとなったことは間違いのない。

**アロン＝カネット**：痛みに耐えながらの厳しいレースとなったけど、勝利への渴望と戦うための熱情を大いに発揮した時間でもあったよ。前腕の僧帽筋、左肩が大きく痛み、満身創痍の状態だったんだ。それでも強さを見せることはできたし、オースティンではこれ以上の結果を間違いなく発揮してみせるよ。



**バリ＝バルタス**：レース結果にはもちろん不満だらけだ。サーキットを攻め込むリズムは確実につかんでいたし、おおむね週末を通じて状態は悪くなかったんだ。いい仕事できていたし、結果に期待はできた。間違いなくトップ 5 に絡むことはできたはずだったんだけど、他のライダーを追い抜く時にロスした数秒が響いてしまった。でもチームは最高の仕事を提供してくれているのは間違いない。



**ロベルト＝ロカテリ、ファンティック・レーシング・リノ＝ソネゴ チームマネージャー**：カネットは素晴らしいレースをしたと思う。金曜日のクラッシュは激しくて、左肩の痛みは相当なものだったはずだが、タフネスさを発揮して見せてくれたんだ。困難な状況下でもチームは全力でライダーを支えたよ。カネットは表彰台に向けて全力で戦ったし、我々は今日のように、重要なポイントを確実に稼ぎ続けることが肝心なんだ。バルタスはスタートで不運にもポジションを大きくロスしてしまった。それでも 22 位から力強くレースを展開してチーム・スタンディング上も現在の 2 位を確保する価値あるポイントを獲得して見せた。